

剣道



エコーラボ合同会社 代表執行役員社長
片山ナルコ株式会社 代表取締役社長

下元 紳志

次世代に繋ぐ剣の道

私は高校生まで剣道の盛んな福岡県飯塚市で過ごしました。小学2年生の時に、母に連れられて町道場に見学に行ったのが剣道との出会いでした。それから学校と剣道が中心の日々を過ごし、高校は昔から剣道と柔道に力を入れていた福岡県立嘉穂高校に入学しました。その道場である淬礪館で故吉岡輝城先生と渡邊裕士先生に熱心にご指導をいただきました。「水瀧刀之位」、器に水が満々と満ちるように気を溜めて相手を攻め、機会をとらえて打突する時は水が堰を切って流れるように全気力をその一打にかけて打ち込む気位は故吉岡先生の教えであり、剣道七段になった今でも難しく修行を続けています。

剣道部の仲間たちと「引退まで

残り20日！」などとカレンダーに書き込んだりしながら、苦しみ、頑張るあまり点滴のお世話にもなりながらも楽しみ、成長しました。高校時代の剣道部は私にとつてかけがえのない場所です。その後、九州大学に進学して剣道部に入部し、故河本 徳先生、中島邦彦先生のもと剣道部の仲間たちと大学時代を過ごしました。九州を離れた今でも九州大学錬心会関東支部に属して定期的に諸先輩方と稽古をし、第二道場（参加必須笑）で剣道談議や昔話ができる環境に身を置けるといことは、まさに至福であると感じています。

剣道は私の人生における様々なステージで、様々なことを教示してくれました。歳を重ねるごとに、剣道に対する目的や楽しみ方も変化してきました。

学生時代の剣道は、勝負以外の

何ものでもありませんでした。試合で勝つことだけを目指して、ひたすら竹刀を振って稽古に励んできました。その稽古の甲斐があつて、高校の時に福岡県の県大会で個人優勝できたことは今でも私の誇りであり、あの辛さを乗り越えられたのだから、その後の苦難はさほどのことではないと折りに触れて思っています。

大学卒業後は、留学や海外赴任の機会があり、剣道を通じて多くの異文化の人と交流することができました。サンフランシスコ、香港、パリで地元の道場で稽古をし、剣道というものを軸に繋がった多種多様な友人を作ることができ、自分の視野を広げることができました。アメリカにいた時、当時石田利也先生が全日本剣道選手権大会で優勝されて、その後訪米され西海岸のサリナスという町で稽古をつけていただく光栄な機会に恵まれました。「この人が剣道日本一か」と思うと躊躇の前の礼の時に、感動と緊張で足が震えたことと、その稽古で強烈に重い面をいただいたことは生涯忘れられない思い出です。

最近では、道場は初心にかえる大切な場所となっています。どれだけ鍛錬を重ねても自身には到達

できない大きな存在があることを認識します。道場という神聖な場所に身を置き、全集中して稽古をし、新たに初心にかえる。自分自身が謙虚になり、また新たな活力を得ることができています。

剣道が自分に何を与えてくれたのか、容易に語れることではありません。しかし、知らぬうちに身につけていた礼儀や作法、相手を尊重する心、二進も三進も行かない境遇での平常心、変化の激しい世の中における判断力などは剣道なしには身に付かなかつたであろうと確信しています。志を同じくし出会った人たちや経験したこと、私の大きな財産であり、剣の道に生きてこられたことに感謝をしています。これからは何らかの形で剣道界に対して貢献をし、課題溢れる現代だからこそ、この道を次世代に継いでいきたいと考えています。

プロフィール

- ・1970年生れ
- ・1994年九州大学工学部卒（学士）、1996年米国スタンフォード大学工学部卒（修士）、2003年仏国INSEAD卒（MBA）
- ・千代田化工建設株式会社、ペイン・アンド・カンパニー、日本ヒルティ株式会社を経て現職
- ・剣道七段